

◇杉並区でも……

　区の施策実行への手続きは、多くの自治体と同じく

　調布｢憲法ひろば｣は3月18日(土)、たづくり9階研修室で第188回例会を開催。｢地方自治という希望　杉並区長選に学ぶ｣と題して岸本事務所の内田聖子(しょうこ)さん**(左写真)**にお話しをいただきました。参加は39人(内ズーム参加7人)。進行は石川康子世話人**(右写真)**、記録は鈴木ヒデヨさんにお願いしました。　　**(編集部)**

第**215**号

**3月22日**

**２０２３年**

**発行:調布九条の会「憲法ひろば」**

----------------------------------------------------------

〒182-0022 調布市国領町2-5-15 あくろす2階

 市民活動支援センター内メールボックス６番

-----------------------------------------------------------

郵便振替**00170-6-445473** 加入者名**大野哲夫**





**E-Mail：choufu9jou@yahoo.co.jp**

**WEBサイトhttp://choufu9jou.sakura.ne.jp**

**お話：**

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

行政主導であった。ほぼ計画が決まってからの市民説明会であり、初めて聞く住民からは　まず疑問や反発が起こる。杉並区で昨年持ち上がった児童館の閉鎖通告、都市計画道路建設もそうだっ　た。施設再編という名の下の再開発も多く、どこにでもあるタワマン、チェーン店の街になっている。調布で、駅前広場の整備について「参加と協働のまちづくり」を謳う市が、「市民参加」を狭い範囲にし、初っ端と最後は行政の不可侵の領域であり、途中で一応市民の声を聞くのみであると痛感する身には、「杉並区でも」と言わざるを得ない。

　さらに杉並では、「公正な区政」には程遠い区長が続き、民主的な区長をと、20年に渡って（６回負け続け）運動する市民グループがあった。

◇国内外では……

　一方で国内外では新自由主義による規制緩和、格差社会での一部経済的優位者が、公共施策にかかわり、経済ばかりか「民主主義」をむしばみ続ける。公共サービスの民間委託で職員の削減、防災を支える地域コミュニティーの弱体化、情報の不透明性、多様性を受け入れない差別、役所でもジェンダー平等が進まない現状に政治手法への疑問を持つ住民たちがいた。逆にそんな政治へのあきらめと、個人の困難を政治社会に結び付けない住民も多く、投票率は低かった。

◇岸本聡子さん立候補まで

　２０２１年秋の衆議院選挙で野党連合の女性候補が当選した第一の奇跡が起こり、足元の区政を変えたい、との機運が盛り上がってきた。

　２０２０年１月、まだ立候補者がいない中で、「住民思いの杉並区長をつくる会」が発足。それぞれの地域での学習会や集会が行われ、候補者がいない政治活動が始まった。ヨーロッパで長く公共政策のリサーチに取り組むシンクタンクで働いていた岸本さんに、前倒しで帰国しての立候補を促したのが、古くからの友人の内田聖子さんだった。６月の選挙の２か月前に岸本聡子さんが立候補表明。市民運動の活性化のために仕事をしてきた岸本さんを得て、新しい選挙運動が始まった。選対部長は内田さんだった。旧来型の選挙運動を考え直す議論を重ね、長時間の街宣よりも、討論をとした。投票率を上げることをまず運動指針とした。

◇｢奇跡の勝利｣へ

 **対話と地べた**

 **からの民主主**

 **義で戦う**

　新鮮な候補者を得て、やさしい熱狂、楽しい運動、やかましくないムーブメント―対話”を選挙戦の中心コンセプトに選挙戦が始まった。

　さとこビジョンという、区政の透明性などをあげる「７つの基本姿勢」は住民の要望で数度更新した。政策中心で対話主義を貫き、既存の選挙キャンペーンの「型」を問い直すうちに地べたからの民主主義が生まれた。市民による各駅での「ひとり街宣(プラカードを下げて、黙って立つ）。区内19の駅で、10日間、朝夕誰かが立つ（これには会場からの関心が大きかった）。選挙戦密着取材映像。毎日１本づつユーチューブにアップ。街角の対話集会では、住民の発言を岸本さんが聞くシーンが多かった。１８７票差で勝つ。投票率が前回より５･５％上がり、37･52％となった。苦しいたたかいだが楽しくできた選挙だった。今後の選挙では、政策比較のために選管が候補者政策をネットに載せるべき。立候補者討論会をやりたかった、などが課題と言える。

◇これからの区政への意気込み

　区政には問題山積。議会は少数与党にして旧体質。先の３月議会でのパートナーシップ条例議案には、信じがたい差別的な反対討論があった。行政には区民とは相いれない思想あり？とも思える。世界で起こっていることは地域でも起こっている。国の施策は弱者切り捨てだが、自治体から変えていこう。区民と歩調をあわせた区政、周辺区政と面でつながりたい。行政へは対決型の運動だけではなく、対話で。区長と共に住民も成長しましょう。すぎなみコモンズというプラットフォームはできた。

 **(鈴木ヒデヨ･記)**

**杉並区長選で何を問い**

**どうのようにたたかったか？**

**第１８８回**

**憲法ひろば**

**内田 聖子さん**

**／アジア太平洋資料センター**

**岸本聡子事務所**



**「公共の再生」の意義と地域運動の可能性**



